

坂井市龍翔博物館 基本的運営方針

1 目的 “坂井市の博物館”を目指す

山に始まり大小の河川と里・町を経て海に至る坂井平野の歴史的特色と風土・文化をテーマにした“坂井市の博物館”を目指す。そもそも、九頭竜川河口にある三国湊は、かつて日本海沿岸各地を結ぶ北前船交易の寄港地、また大小の河川を介して越前国内一円を結びつける水運物流の拠点であった。水脈源の山地を含めた坂井平野全域が河川を通じて三国湊につながり、全国に物資が運ばれたように、坂井市の歴史・文化や魅力を、この館から全国に発信する。また、観光客が多数訪れる立地条件や北陸新幹線の福井延伸を活かし、多くの来館者を誘う。

当館は、坂井市の貴重な歴史・文化遺産の収集、保管、研究を行い展示活用し次世代へ継承していくという役割を担っている。五層八角白亜の魅力ある外観を生かしつつ、博物館として、機能や設備の充実を図っていく。

【活動目標】

坂井市龍翔博物館のリニューアルにともない、新たに整備した施設を活用し、坂井市の博物館として、市の歴史や文化を、市民、および市内外に広く普及する。

2-1 基本理念 「— みせる つなげる はぐくむ —」

○みせる

旧坂井郡全体を視野に入れながら、坂井市域の多様性と特殊性・共通性をふまえ、歴史や歴史遺産・文化遺産を「みせる」

【活動目標】

常設展のほか、秋の観光シーズンや春休みの時期をねらって、特別展や企画展を開催し、館蔵資料のほか、市関連資料を市内外から借用して展示する。

○つなげる

坂井市のアイデンティティを形成する資料や遺産を収集・保存・研究し、長く後世に伝える文化拠点として、坂井市の各地域、市内と市外、人との(資料)、異なる世代、そして現在から未来へ「つなげる」

【活動目標】

市の特性を形成する資料などを随時、収集・保存・研究し、長く後世に伝える文化拠点として、ワークショップの開催を通して、市内外や異なる世代に発信する。

〇はぐくむ

豊かな文化や郷土への誇り・愛情、また子どもたちの可能性を「はぐくむ」

【活動目標】

子どもにとっては「校外学習の場」、大人にとっては「生涯学習の場」として、市民や来館者が「楽しく学べる場」とする。また、夏休みの時期をねらって、企画展を開催し、子どもたちの豊かな文化や郷土への誇り・愛情を掘り起こす。

2-2 基本理念に沿った事業の5つの柱

①展示室の全面整備

- ・常設展示室を坂井市唯一の博物館にふさわしい展示室にする。
- ・坂井市全域を扱う展示とする。
- ・指定文化財が展示可能な特別展示室を設置する。

②収蔵機能の再編

- ・坂井市の大切な歴史・文化遺産を後世へ継承するための収蔵環境を整備する。
- ・坂井市全域を視野に入れた資料収集・整理・保存に向けた収蔵機能を再編する。

③調査研究・教育普及機能の強化

- ・人々をつなぎ、はぐくむため、博物館事業の基盤となる調査研究機能ならびに教育普及機能強化の為の適正な人員配置と場を確保する。

④観光と連携した情報発信機能の強化

- ・地域の魅力を伝え人々を誘う、観光と連携した情報発信機能を強化する。

⑤誰もが利用しやすい施設へ

- ・バリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入、多言語対応等により、あらゆる人々が利用しやすい施設に向けての環境を整備する。

2-3 導入機能

(1) 資料収集・保存機能 <集める・守る>

1)基本方針

坂井市の豊かな歴史・文化、その他に関する資料を収集し、その散逸を防ぎ、未来への遺産として後世に引き継ぐ。

2)事業の展開

①収集保存の対象

- ・坂井市の歴史・文化に関する諸資料を対象とする。

・対象は、考古資料・文献資料・美術工芸資料・文学資料・民俗資料・写真などとし、実物のみならず映像や音声、関連図書も含む。

②収集の方法

・坂井市の歴史や文化に関する重要資料は研究者や研究機関とのネットワークを活かし、所在を把握し可能な限り収集に努める。
・広く歴史的価値のある資料の寄贈・寄託を受ける。
・坂井市の歴史・文化を調査研究する上で重要な資料に関しては、購入も検討する。

③資料の保存・管理

・収集資料、調査の対象範囲拡大にあわせて、保存環境の整備および収蔵機能の増強を目指す。
・資料の形態や種類、材質等の特性に応じて適切に保存する。
・指定文化財をはじめとする貴重な資料の保管が可能な環境を整える。

④資料の修復

・破損、劣化した資料は、適切な修復を図る。

⑤資料のデータベース化

・調査研究を促進し、幅広い人々への還元を図るため、収集した資料を系統的に分類・整理し、データベース化を行う。また、データベース化をホームページ等で一般に公開することも検討する。

(2) 調査研究機能<調べる>

1)基本方針

収蔵資料および展示資料等の調査研究を含め、坂井市の歴史や文化に関する研究拠点とする。

2)事業の展開

①坂井市の歴史・文化に関する調査研究

・原始から現代に至るまでの坂井市の歴史および風土、民俗、産業、文学、美術等に関して調査研究を行う。

②収蔵コレクションの活用

・収蔵コレクションは、館外部の人々の研究活動にも役立てられるよう、その利活用を図る。

③調査研究にあたる人員の配置

・新しい博物館が担う分野を担当する学芸員の増員を検討する。

④調査研究の連携

・他の博物館や大学等の研究機関、各種団体等と連携した調査研究も行う。

⑤研究成果の発信

・調査研究の成果を積極的に発信し、市民や社会に還元する。その方法は、展示や講座のほか、紀要・目録・報告書等の出版物、またマスコミや、各種SNSも含めたインターネット等の各種媒体を通じて行う。

(3) 展示機能<魅せる>

1)基本方針

博物館施設として基盤となる資料収集、調査研究の成果を還元・反映し、坂井市の歴史・文化をわかりやすく魅力的に伝える。

2)事業の展開

①常設展示

- ・坂井市の歴史・文化を通観できるようにする。
- ・龍翔小学校の外観を模した形状とその立地より三国湊の歴史的・地理的特性、文化を主たるテーマの一つとする。
- ・坂井市を訪れた観光客、また市内外の子どもの校外学習の利用にも供するため、映像・音声・模型・参加体験型(ハンズ・オン)展示等の手法も取り入れ、誰もが親しめるわかりやすい内容にする。
- ・時代や社会状況の変化に応じて変えることができる、新鮮さと柔軟さをもった可変型の展示とする。
- ・情報だけでなく、「モノ」(資料)が持つ魅力を伝える展示を心がける。

②特別展示

- ・常設展示とは異なる視点でテーマ性・話題性のある企画展や特別展を開催する。
- ・展示室として、多種多様な規模・内容に対応できる空間を整備する。
- ・「文化財公開施設の計画に関する指針」(文化庁、平成7年8月)の要件を満たす展示環境を整え、指定文化財も公開可能な施設とする。

(4) 教育普及機能<学ぶ・楽しむ>

1)基本方針

子どもにとっては「校外教育の場」、大人にとっては「生涯学習の場」として、市民や来館者が「楽しく学べる場」をめざす。

2)事業の展開

①多目的室(交流・学習室)の設置

・かつての龍翔小学校の外観を持つ施設であることから、教育普及の場を新たに設け、多種多様なニーズに対応できる多目的室として事業を展開していく。

②市民を対象とした教育普及事業

・坂井市の歴史・文化への興味を喚起する学習機会を提供するとともに市民が活動に参加

できる機会も提供する。

・子どもたちの郷土への誇りと愛着を育むため、学校教育との連携を図り、地域の歴史・文化について学び理解を深める学習機会を提供する。

【事業例】

- ・坂井市の歴史・文化に関する講演会・講座の開催
- ・特別展示に関連する講演会の開催
- ・学芸員や解説ボランティアによるギャラリートーク
- ・市内各地での出前講座
- ・体験型ワークショップの開催
- ・児童・生徒向け歴史講座の開催
- ・作品コンテストの開催

(5) 観光連携機能<誘う>

1)基本方針

日本遺産に認定された三国湊や東尋坊といった坂井市内でも多くの観光客が訪れる三国エリアに位置する立地条件を活かし、多くの来館者を誘う。

2)事業の展開

①インフォメーションサービス

- ・三国エリアを訪れた観光客に、その魅力や情報を伝える「ビジターセンター」的役割をはたす。
- ・坂井市内の周遊マップやワークシート等案内ツールの充実を図るとともに、多言語対応を含め多様なニーズに対応した情報提供を行う。

②観光連携

- ・旅行者や地元観光団体へ展覧会やイベント等の情報提供を行い、連携を図って観光活用を促進する。

3 施設概要について

(1) バリアフリー対応

- ・スロープおよび階段よりアプローチする正面玄関(風除室)を設け、駐車場側にエントランスを設置する。
- ・来館者が1階から4階まで行けるバリアフリー対応の乗用エレベーターを設置する。
- ・スロープ等で段差を解消する。
- ・トイレは多目的トイレを整備し、多目的トイレ内に呼出ボタンを設置する。
- ・障がい者用駐車場を整備する。
- ・障がい者用にカメラ付きインターホンを設置する。

(2) 施設の老朽化の改善

- ・空調換気設備を整備する。
- ・雨漏り、結露、浸水等に対応する。
- ・照明のLED化

(3) 施設の活動と居室配置の一致

- ・多目的室(交流・学習室)を確保するため、1階に最大100名収容の多目的室を整備する。

(4) 資料の展示保存環境

- ・展示空間と収蔵庫の環境整備を図り、資料の展示・保存環境を整備するため、地階収蔵庫および1階特別展示室を恒温恒湿対応に整備する。
- ・収蔵スペースは地下収蔵庫を再整備する。

4 展示計画

4-1 展示方針

“坂井市全体の博物館”へ

・坂井市の通史を軸とした展示構成の構築

日本の歴史の大きな流れの中での、坂井市の歴史を辿れる展示の軸を設け、時代の流れを辿りながら、坂井市の歴史を学べる構成とする。

・魅力あるテーマの抽出

坂井市の魅力を伝えるテーマを通史の中より抽出し、通史の中でのハイライトとして、より深く学べる構成とする。その際、立地や来館者層を踏まえ、三国湊の歴史的・地理的特性、文化を主たるテーマの一つとする。

また、学術的に関連しあう分野は、補完して、より総合的な理解につなげる。

博物館の新たな魅力を創出

・わかりやすく楽しい展示

ハンズオンやワークショップ等、子どもたちも楽しみながら坂井市のことを学べる展示演出を導入する。

・繰り返し訪れたい展示

訪れた人が何度も足を運びたいような施設を目指し、常設展示においても可変型の展示を取り入れ、展示が陳腐化しないようにする。また特別展示では、指定文化財等、貴重な資料が見られる機会も提供する。

・誰もが利用しやすい展示

あらゆる人々が利用しやすいように、バリアフリー、多言語対応等に配慮する。

・郷土愛を育む展示

市民が郷土への誇りと愛着を育める展示とする。

4-2 展示テーマ・展示構成

(1)常設展示

常設展示は日本と坂井市の通史を軸に、歴史のハイライトとなる出来事や事象、人物をテーマ展示として抽出し、関連する分野も補完しながら、日本全体の中での位置づけを踏まえつつ坂井市の歴史と文化を通観できる構成とする。

展示のねらい

坂井市内(三国・丸岡・春江・坂井の各地域)の特異性かつ共通した歴史的・文化的背景をもとに、坂井市がひとつのまとまった地域であること、また福井県そして全国のなかでの位置づけをいくつかのテーマをもとに紹介する。

九頭竜川河口にある三国湊は、かつて日本海運・北前船交易の寄港地、また大小の河川で越前国内一円を結びつける水運物流の拠点であった。坂井平野全域が、河川を通じて三国湊につながり、全国に物資が運ばれたように、この館から、山・里・町・海で構成される坂井市の歴史・文化や魅力を全国に発信する。

(2)特別展示

特別展示は、指定文化財が公開可能な展示環境を整備し、テーマ性・話題性のある企画展や特別展を開催する。

(特別展テーマ例)

・坂井市の文化財

指定されている各種文化財を一堂に集め公開する。

・坂井市に関係するテーマ

坂井市に関係する事象や人物について、記念碑的な年(「〇〇△周年記念」)などにあわせて、テーマを選んで、関係資料を一堂に集め公開する。

・坂井市による調査結果

坂井市で作成している「文化財保存活用地域計画」に付随する調査や、丸岡城の国宝化に向けて行われている資料収集・調査など、坂井市でやった調査研究の成果を公開する。

・館蔵資料展示

館蔵資料群(コレクション)を適宜テーマに沿って構成して、展示を行う。収蔵庫内の実物資料を公開する機会とし、坂井市の歴史・文化を守り伝えるべく収集された館蔵資料の活用を図る。